

社会技術研究開発事業
令和4年度研究開発実施報告書

科学技術の倫理的・法制度的・社会的課題（ELSI）への
包括的実践研究開発プログラム
「医療・ヘルスケア領域におけるELSIの歴史的分析和アー
カイブズ構築」

後藤基行

（立命館大学大学院先端総合学術研究科 准教授）

目次

1. 研究開発プロジェクト名	2
2. 研究開発実施の具体的内容	2
2 - 1. 研究開発目標	2
2 - 2. 実施内容・結果	3
2 - 3. 会議等の活動	7
3. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況	9
4. 研究開発実施体制	9
5. 研究開発実施者	9
6. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など	12
6 - 1. シンポジウム等	12
6 - 2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など	13
6 - 3. 論文発表	14
6 - 4. 口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表）	14
6 - 5. 新聞／TV報道・投稿、受賞等	15
6 - 6. 知財出願（出願件数のみ公開）	15

1. 研究開発プロジェクト名

医療・ヘルスケア領域におけるELSIの歴史的分析和アーカイブズ構築

2. 研究開発実施の具体的内容

2 - 1. プロジェクトの達成目標

(A) . 【ヘルスケアアーカイブズに基づくELSI研究】

医科学は研究と臨床という2つの実践をもち、特に研究段階から臨床への応用過程にはトランスサイエンス的事象が起り、その結果として今日でいうところの「ELSI」（「原ELSI」）が歴史的に多く生じてきたと考えられるが、十分な実証研究は行われてこなかった。よって、日本の医科学の歴史の中でいかなるトランスサイエンス問題とELSIが生じてきたか、患者・市民参画（PPI/E）の上で、一次資料たるヘルスケアアーカイブズに基づきながら、医学史・科学史研究、医療社会学、科学技術社会論を専門とする研究グループを結合したイニシアティブにより明らかにすることを第一の目標とし、関連の編著を刊行する。また、この研究における一次資料および関連二次資料の収集を通じて、医科学のELSIで欠落していた政策評価・策定にも資する歴史的なエビデンスを提供するヘルスケアアーカイブズを構築する

(B) . 【提言や課題解決を可能とする患者・市民参画型システム】

(A)の研究の遂行過程において研究者以外にも参画する患者・当事者・市民などのマルチステークホルダーとの関係を一時的なものにするのではなく、より長期的な集合体組織として継続させ、医科学にかかわるELSIについて、歴史的知見を踏まえて評価・提言が可能なタレントプールとしていくことを目標とする。将来的にはこのタレントプール内に教育・研修機能を実装することで、先端医療研究を含むヘルスケア全般の問題とELSIにも対応するシステムとしていく。個別の目標としては、(A)に関わった研究そのものを協働して生成すること、そして保存や公開の仕組みが整っていないヘルスケアアーカイブズの問題について医療機関や患者・家族の視点を組み込んだ実効的なガイドラインを提言することなどである。また、これら各個のプロジェクト遂行において、俯瞰的・総合的見地から、どのような知見がELSIとして見出せるか《ELSIに関わる総合的検討》を随時行い、全体的なクオリティコントロールと同時に、研究プロジェクトがもつ倫理的側面の評価も行う。こうした活動を通じて、アーカイブズのみならず、ヘルスケア領域全般のELSIの現代的課題にも対応する実践的協業体制システムへ発展させることそのものも研究開発目標とする。

2 - 2. 実施内容・結果

（1）スケジュール

研究実施項目	2022年度 (6ヵ月)	2023年度 (12ヵ月)	2024年度 (12ヵ月)	2025年度 (12ヵ月)
1. 医療・ヘルスケア領域の歴史的ELSI研究				
・個別歴史研究の遂行		←————→		
・医科学の統計・資料の収集とHP公開		←————→		
・研究会		⇔	⇔	⇔
・編著本執筆と刊行				←————→
2. 患者・市民参画型システム構築				
・PABの位置づけなどに関する見直し		←————→		
・PABメンバー、チーム構築		←————→		
・ヘルスケアアーカイブズや歴史研究に関する意見や提言		←————→		
・疾患・障害者団体や組織への質問紙調査		←————→		
・疾患・障害者団体や組織への聞き取り調査			←————→	
・ヘルスケアアーカイブズに関するガイドラインの作成			←————→	
・PABメンバーに対する各種教育啓発プログラムの実施		←————→		
・シンポジウム開催				⇔
3. ELSIに関わる総合的検討				
・ガイドライン策定のプロセスに対する助言		←————→		
・PABに対する助言や進捗状況評価		←————→		
・個別歴史研究並びに代表者への助言		←————→		
・PABメンバーに対する各種教育啓発プログラムの実施		←————→		
・執筆予定著書や意見書の構想や内容への助言とクオリティコントロール			←————→	

（2）各実施内容

≪医療・ヘルスケア領域の歴史的ELSI研究≫（歴史研究G）

- ① 実施項目：収集対象とすべきアーカイブズ、および購入を進める史資料について検討
 - Gメンバーへの聴取と、代表者による資料選定
- ② 実施項目：年度末において収集した資料について事務局に報告
 - Gメンバーへの聴取
- ③ 実施項目：第1回研究会の開催

➤ 全体ミーティングの実施

《提言や課題解決を可能とする患者・市民参画型システム》（PPI・G）

- ④ PABの位置づけに関する見直し作業
 - R4年度、PPIGで月1回の定例MTを開催
 - 後藤班のエコシステムにおけるPABの目的と果たすべき役割の検討
- ⑤ PABメンバーの公募・選定（どのようなチーム構築をするかなどに関する検討）
 - 全体班会議、歴史研究G、PPIGの各定例MTでPABメンバーの選定プロセスについて討議
 - 国内の研究事業で既に実施されている患者・市民参画委員の取り組みや、国内外のPABや参加者パネル事例について調査を実施
- ⑥ PPIとして議論の対象とすべきアーカイブズについての検討
 - 歴史研究Gの定例MTにPPIGが参加し、収集対象とするアーカイブズの内容についての議論に参加
- ⑦ PABメンバーに対する各種教育啓発プログラムの内容の検討
 - PABの既存ネットワーク強化や公募・選定等の検討に先に注力し、来年度に具体的な内容の検討

《ELSIに関わる総合的検討》（総合検討G）

- ⑧ PABのチーム構築に対する助言
 - 総合的検討Gのミーティングで協力団体との関係構築およびPABの運営について検討、PPIGに助言
- ⑨ 研究会参加：歴史研究Gの個別研究の内容について把握
 - 研究計画書の確認及び、歴史研究GへのMTGに参加
- ⑩ PABメンバーに対する各種教育啓発プログラムの内容の検討
 - AMEDのPPIガイドブックを参考に、歴史的アーカイブズ構築というテーマの特性に応じた啓発資料の要件を整理した

（3）成果

《医療・ヘルスケア領域の歴史的ELSI研究》（歴史研究G）

- ① 収集対象とすべきアーカイブズ：歴史的なELSIに関わって収集対象とすべきアーカイブズについて、研究者らからの情報提供と一部打ち合わせを行った。

収集対象とすべきアーカイブズ		
担当者	テーマ	内容
後藤	精神医療	医療機関作成の資料（病院年報や記念誌）、精神衛生法時代の措置入院・同意入院に関する全国の公文書、『衛生年報』『衛生行政業務報告』に記載のある都道府県別の同意入院や措置入院データ（現在デジタル化も進行中）
中村	戦争神経症	戦争で心を病んだ元兵士の子ども世代、孫世代へのインタビュー記録及び関連資料（軍歴証明書、手記、写真、書簡、回想録など）
松岡	ハンセン病	長島愛生園にある神谷書庫・愛生編集部を整理しつつ、1953年のらい予防法改正反対闘争にいたる入所者・職員らが執筆・発行した園内のミニコミ誌、ハンセン病療養所の運営に関する歴史公文書
坂井	難病	「日本せきずい基金」関連資料：会報、臨床研究関係（関西医科大、大阪大、中国）、基金の組織に関するデータ
渡部	難病	各都道府県の旧国立療養所国立病院の年報、記念誌、国立病院、国立療養所に関する資料
佐藤	老人医療	『社会医療診療行為別調査報告』『病院経営実態調査報告』、インタビュー調査－元官僚、病院経営者、措置時代を知る特別養護老人ホーム管理者
末田	公衆衛生	『東京都衛生年報』『愛知県衛生年報』精神衛生法成立時の国会議事録（精神衛生相談所設置に関して）、愛知県の優生保護相談所に関する活動記録（職員の学会発表や論文等）
川端	公衆衛生	『外地「いのち」の資料集』（1）－（6）、『戦前期「外地」図書館資料』
松原	リプロダクティブ・ヘルス	優生科研との連携－旧優生保護法・国民優生法に関する全国の公文書

② 収集した資料：『衛生行政業務報告』、『老人保健施設調査/老人保健施設報告』、『厚生省報告例』、『衛生局年報』、『国民衛生の動向』、『厚生指針』、『日本社会衛生年鑑』、『医学史研究』、『病院』など。

③ 第1回研究会の開催：全体ミーティングの実施
 2023年1月28日に患者家族会など協力者も含めた全体ミーティングを実施し、プロジェクト内容の再共有や、アーカイブズについての考え方などの議論を行った。
 会議参加者一覧：【PI】後藤基行（立命館大学）【GL】松原洋子（立命館大学）、渡部沙織（東京大学）【歴史研究IG】佐藤沙織（尾道市立大学）、川端美季（立命館大学）、中村江里（広島大学）、末田 邦子（愛知淑徳大学）、【PPI・G】久保田明子（広島大学）、利光恵子（立命館大学）、赤司友徳（九州大学）、谷田朋美（毎日新聞）、【総合検討G】美馬達哉（立命館大学）、竹島正（大正大学）、藤田卓仙（慶應義塾大学）、立岩真也（立命館大学）【オブザーバー】小幡恭弘（公益社団法人全国精神保健福祉会）、小島幸子（一般社団法人全国手をつなぐ育成会連合会）、増田一世（特定NPO法人日本障害者協議会）

≪提言や課題解決を可能とする患者・市民参画型システム≫（PPI・G）

④ PABの位置づけに関する見直し作業：決定した事項＝医学研究や医薬品等開発において開発されてきた患者・市民参画(PPI/E)のフレームを基盤としつつ、患者・家族に馴

染みのうすい「過去の歴史的資料の取り扱い」という特異なテーマについて理解しながら意見を頂ける仕組みが求められる。総合検討Gからの助言に基づき、修正したR3の前身後藤班で実施した診療録の歴史研究利用に関するヒアリングに参加して下さった患者・家族団体のオブザーバーの方々に、改めて利活用に関するリスク認識やアーカイブズのニーズに関するヒアリングを実施し、後藤班の構想について意見交換する機会をR5冒頭に持つ。既に関心を持ち、自団体の資料保存やアーカイブ化に取り組んでいる方々とのネットワークを強化する

- ⑤ PABメンバーの公募・選定：決定した事項＝オブザーバーの患者・家族団体を中心に、半数（N3~4程度）は個別選定。もう半数は、アーカイブズに関連が深い障害や疾患の団体に協力をお願いし、本事業に関する説明会を行なった上で公募（N3~4程度）を行う。書類審査、個別面接の上、PAB委員に選定された方には月1回~隔月程度のワークショップに参加して頂く。
- ⑥ PPIとして議論の対象とすべきアーカイブズについての検討：決定した事項＝歴史研究Gメンバーが各1回はワークショップでPABからフィードバックを受ける事を前提として、今後、PABと連携するELSIのテーマの抽出とワークショップ用の資料の整理を行なっていく予定
- ⑦ PABメンバーに対する各種教育啓発プログラムの内容の検討：決定した事項＝PAB委員の研修として、ヘルスケアアーカイブズ（後藤）、プライバシー保護（藤田）、患者・市民参画（渡部）、ハンセン病や優生保護法の歴史（松原）など、研修用プログラムを企画・実施する

◀ELSIに関わる総合的検討▶（総合検討G）

- ⑧ PABのチーム構築に対する助言：決定した事項＝関係構築済みの患者・家族団体のオブザーバーの方々に、利活用に関するリスク認識やアーカイブズのニーズに関するヒアリングを実施し、後藤班の構想について意見交換する機会をR5冒頭に持つ。既に関心を持ち、自団体の資料保存やアーカイブ化に取り組んでいる方々とのネットワークを強化する。通常のIC取得のプロセスでは本人の同意能力が不十分であるとしてアセントや代諾で取り扱われたり、参画すること自体に支援が必要な方々も後藤班のアーカイブズにとっては重要なステークホルダーとなる（知的障害者やろうあ者、精神障害者など）。ヴァルネラブルな、PPIの参画にサポートが必要な方々の意見を聴取するためのサブグループの設置を検討する。R5年度に検討し、R6年度に試行的に実施する
- ⑨ 歴史研究Gの個別研究の内容について把握：研究計画書の確認及び、Gメンバーの竹島を中心に歴史研究GへのMTGに一部参加した
- ⑩ PABメンバーに対する各種教育啓発プログラムの内容の検討：決定した事項＝PPIGにおけるPABの既存ネットワーク強化や公募・選定等の検討状況を踏まえて、教育啓発プログラム作成上の課題を抽出する。AMEDのPPIガイドブックを参考に、歴史的アーカイブズ構築というテーマの特性に応じた啓発資料の要件を整理する。PAB委員研修プログラムに協力する

（４）当該年度の成果の総括・次年度に向けた課題

2022年度においては、本プロジェクトが最終的に目標としている（A）ヘルスケアアーカイブズに基づく医科学の歴史的ELSI研究、（B）提言や課題解決を可能とする患者・市民参画型システムの構築に対して、基本的に本格的始動をするための準備期間として、体制整備が主に中心となった。

歴史研究Gとしては、アーカイブズの収集状況について、研究実施者の一人である松原が代表となっている科研費プロジェクトとの連携がうまくいっていることもあり、医療ヘルスケアにかかわる公的統計の収集およびスキャン（PDF化作業）は順調に進んでいる。また、各実施者が収集しようとしているアーカイブズやデータなどについてもおおよそ方向性が明らかとなった。全体会議も実施され、関係メンバー多数の参加によりプロジェクトの目標なども共有が進んだと思われるが、その理解度に差があることが今後の課題として見えてきている。

PPI・Gとしては、Gとして設定されていた課題やマイルストーンが明確である一方で、PABの人選などには総合的検討班からの意見がありヴァルネラブルなステークホルダーの参画が求められて、その採択が決まった。これにより、統合的なPPIの実施は難度が高くなったが、本プロジェクト並びにELSIという観点から考えて前向きな課題が発生したとも評価可能と考える。なお、全体的課題としてPPI・GはGとしての遂行事業が多い一方で、研究実施者メンバーが所属機関での本務が多忙になっている関係上、想定したほどの参画が困難であった。そのため2023年度以降は、雇用研究員を中心に本方面への一層のエフォート配分が必要となっており、渡部Gリーダーとのより密な連携をとれるようにしたい。

総合的検討Gは、個別にGとしての計画を遂行するのではなく、各Gへの助言などを主な役割としている。このためGとしての機能はやや曖昧な部分が当初懸念されたが、PPI・Gへの助言などは正鵠を射た重要なものがあり、Gメンバーの研究者としての実績や能力が今後も大きな助力となっていくことが想定される。

2 - 3. 会議等の活動

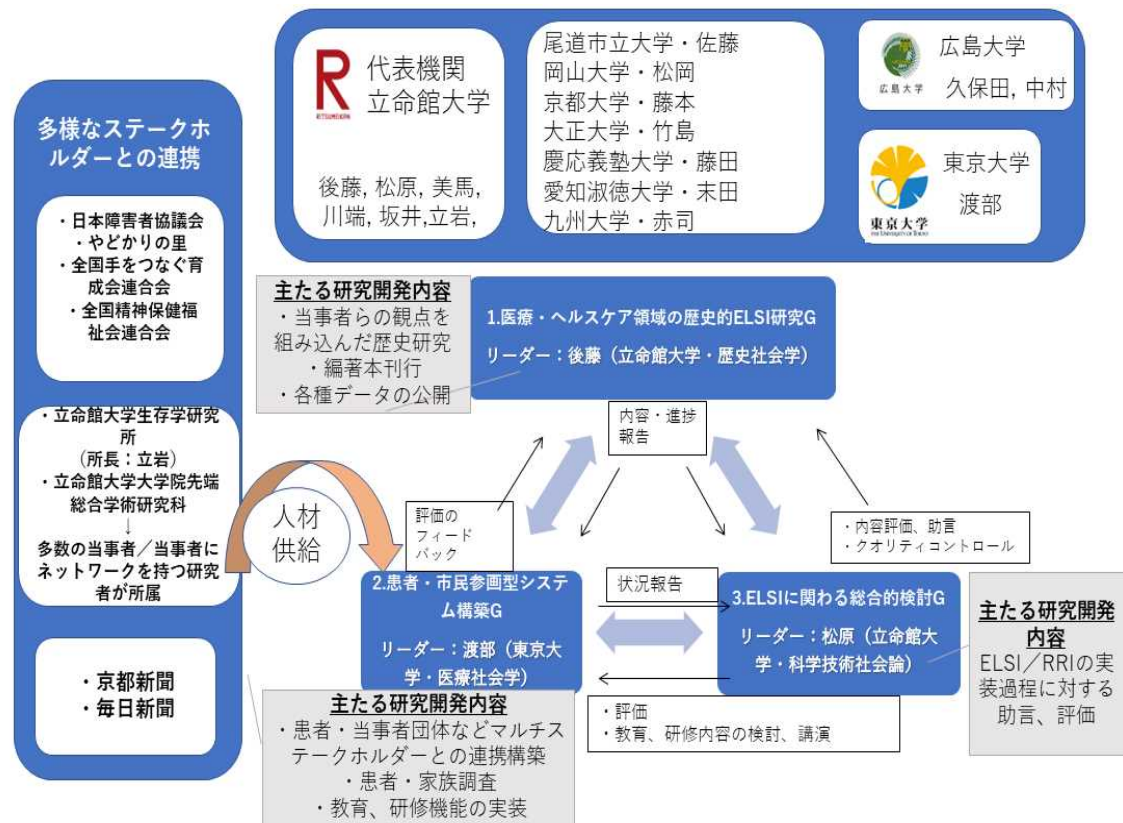
年月日	名称	場所	概要
2023.1.28	全体ミーティング	ZOOM	プロジェクト内容の再共有や、アーカイブズについての考え方などの議論
2023.2.13	第1回 PPIG 定例ミーティング	ZOOM	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度内のマイルストーンの確認 ・年度内のスケジュールの確認
2023.2.20	第1回歴史研究G 定例ミーティング	ZOOM	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶 ・今年度内のマイルストーンの確認 ・自己紹介と資料紹介 ・年度内のスケジュールの確認と次年度について

2023.2.28	総合的検討班G 第1回ミーティング	ZOOM	<ul style="list-style-type: none"> ・Gリーダー (松原) 挨拶 ・後藤挨拶 (研究目的の確認) ・今年度および次年度マイルストーンの確認 ・PPI・G、歴史研究Gの進捗確認 ・今後の総合班の動き方について ・次回MTGの開催日調整と頻度の確認 (3か月に1回程度?)

3. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況

現在のところ未実施

4. 研究開発実施体制



5. 研究開発実施者

(1) 《医療・ヘルスケア領域の歴史的ELSI研究》グループ

研究代表者氏名	所属機関・部署等・役職（身分）	予算配分の有無 ¹⁾ （=JSTとの委託研究契約の締結）	雇用 ²⁾
後藤 基行	立命館大学・大学院先端総合学術研究科 准教授	有 研究者番号：70722396 研究機関コード：2552000000 エフォート：30%	
研究実施者氏名 ^{3) 4)}	所属機関・部署等・役職（身分）	予算配分の有無 ¹⁾	雇用 ²⁾
佐藤（高間） 沙織	尾道市立大学・経済情報学部・准教授	有 研究者番号：20782030 研究機関コード：1283000000	-

			エフォート：10%	
渡部 沙織	東京大学・医科学研究所公共政策研究分野・特任研究員	有	研究者番号：00828999 研究機関コード：0172000000 エフォート：10%	-
松原 洋子	立命館大学・大学院先端総合学術研究科・教授	有	研究者番号：80303006 研究機関コード：2552000000 エフォート：5%	-
川端 美季	立命館大学・衣笠総合研究機構・准教授	有	研究者番号：00624868 研究機関コード：2552000000 エフォート：10%	-
中村 江里	広島大学・大学院人間社会科学研究科・准教授	有	研究者番号：20773451 研究機関コード：0336000000 エフォート：10%	-
松岡 弘之	岡山大学・大学院社会文化科学研究科・准教授	有	研究者番号：30877808 研究機関コード：0332000000 エフォート：5%	-
坂井めぐみ	立命館大学・衣笠総合研究機構・専門研究員	有	研究者番号：00851578 研究機関コード：2552000000 エフォート：10%	-
末田 邦子	愛知淑徳大学・福祉貢献学部・准教授	有	研究者番号：00434556 研究機関コード：2133921000 エフォート：5%	-
篠原 史生	立命館大学・大学院先端総合学術研究科・博士課程院生	無	-	有
今井 浩登	立命館大学・大学院先端総合学術研究科・博士課程院生	無	-	有
吉田 光	立命館大学・大学院先端総合学術研究科・修士課程院生	無	-	有

(2) 《患者・市民参画型システム構築》グループ

グループリーダー氏名	所属機関・部署等・役職(身分)	予算配分の有無 ¹⁾ (=JSTとの委託研究契約の締結)	雇用 ²⁾
渡部 沙織	東京大学・医科学研究所公共政策研究分野・特任研究員	有 研究者番号：00828999 研究機関コード：0172000000 エフォート：10%	/
研究実施者氏名 ^{3) 4)}	所属機関・部署等	予算配分の有無 ¹⁾	雇用 ²⁾

赤司 友徳	九州大学・大学文書館・准教授	有	研究者番号：70774587 研究機関コード：0368000000 エフォート：10%	-
久保田 明子	広島大学・原爆放射線医科学研究所 附属 被ばく資料調査解析部・助教	有	研究者番号：40767589 研究機関コード：0336000000 エフォート：10%	-
坂井 めぐみ	立命館大学・衣笠総合研究機構・専門研 究員	有	研究者番号：00851578 研究機関コード：2552000000 エフォート：10%	-
利光 恵子	立命館大学生存学研究所・客員研究員	無	-	-
谷田 朋美	毎日新聞社大阪本社編集局・記者／CFS(慢 性疲労症候群・筋痛性脳脊髄炎)支援ネット ワーク理事／立命館大学生存学研究所・客 員研究員	無		-

(3) ELSIに関わる総合的検討グループ

グループリーダー氏名	所属機関・部署等・役職（身分）	予算配分の有無 ¹⁾ (=JSTとの委託研究契約の締結)	雇用 ²⁾
松原 洋子	立命館大学・大学院先端総合学術研究 科・教授	有 研究者番号：80303006 研究機関コード：2552000000 エフォート：5%	/
研究実施者氏名 ^{3) 4)}	所属機関・部署等	予算配分の有無 ¹⁾	雇用 ²⁾
美馬 達哉	立命館大学・大学院先端総合学術研究 科・教授	有 研究者番号：20324618 研究機関コード：2552000000 エフォート：5%	-
竹島 正	大正大学・地域構想研究所・客員教授	有 研究者番号：20300957 研究機関コード：2218000000 エフォート：5%	-
藤田 卓仙	慶應義塾大学 医学部 医療政策・管理学 教室 特任准教授	有 研究者番号：80627646 研究機関コード：2132612000 エフォート：5%	-

6. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など

6-1. シンポジウム等

年月日	名称	主催者	場所	参加人数	概要
2023年1月29日	合評会（『メンタルクリニックの社会学：雑居する精神医療とところを診てもらおう人々』（2022年、榎原克哉著、青土社）、『精神障害を生きる：就労を通して見た当事者の「生の実践」』（2022年、駒澤真由美著、生活書院）	主催：医療社会学研究会、共催 RISTE X「ヘルスケアアーカイブズに基づく ELSI研究と患者・市民参画」	ハイブリッド開催（龍谷大学大阪梅田キャンパス、Zoom）	40名	近年、精神保健医療福祉分野における通院や就労の実態を、その歴史的社会的文脈、各種制度、当事者の語りにより目配りしつつ探究した研究が相次いで出版されている。今回の合同合評会は榎原克哉氏の『メンタルクリニックの社会学——雑居する精神医療とところを診てもらおう人々』（青土社、2022年）と、駒澤真由美氏の『精神障害を生きる——就労を通して見た当事者の「生の実践」』（生活書院、2022年）。
2023年2月18日	国際シンポジウム「精神医学のトランスサイエンス」『グローバル・メンタルヘルスを再考する：「治療のギャップ」のエビデンスギャップ』（司会：美馬）	主催：RISTE X「ヘルスケアアーカイブズに基づく ELSI研究と患者・市民参画」	ハイブリッド開催（立命館大学朱雀キャンパス、Zoom）	50名	グローバル・メンタルヘルスは、精神医学の疫学、医療経済学、医療システム研究、エビデンスに基づく治療法、一般市民の意識、人権、持続可能な開発などを組み合わせて、「治療のギャップ」に関する首尾一貫した物語として出現したものである。ここではまず、疫学、心と気分の経済学、治療のギャップというGMHの3本柱の出現と危機を辿る。そして、GMHは、データの欠陥、経済発展と健康増進の間の逆説的關係、そして低所得国において人々が実際にどのような

					に助けを求めるかについて戦略的に無知であるため、依然として限界があることを論じる。最後に、GMHのアプローチは、その矛盾を考慮に入れなければ、失敗するに違いないことを主張する。

6-2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など

(1) 書籍、フリーペーパー、DVD

- ・ 竹島正：第二次世界大戦のメンタルヘルスへの影響 - 自殺に焦点を当てて、戦争と文化的トラウマ - 日本における第二次世界大戦の長期的影響。日本評論社。232-244. 2023
- ・ 美馬達哉、姫野友紀子、川口有美子、鍾宜錚、柏崎郁子、田中美穂（2023）「人工呼吸器のモテ期と人間の尊厳—閉じ込め症候群の人びとは何を感じたか—」公益財団法人日本学術協力財団編『学術会議叢書30「人間の尊厳」とは——コロナ危機を経て——』公益財団法人日本学術協力財団
- ・ 松岡弘之「第90回瀬戸内集談会講演 ハンセン病関連資料の継承のために（上）」『愛生』（国立療養所長島愛生園）76巻6号、2022年12月、18～26頁
- ・ 松岡弘之「第90回瀬戸内集談会講演 ハンセン病関連資料の継承のために（下）」『愛生』（国立療養所長島愛生園）77巻1号、2023年2月、13～20頁
- ・ 松岡弘之「和志美最堂のみた外島保養院—「一河の流れ」を読む」『ふれあい福祉だより』（ふれあい福祉協会）23号、2022年12月、24～33頁
- ・ 松岡弘之「長島愛生園と邑久光明園—「自治」からみたハンセン病」（岡山大学文明動態学研究所編『大学的岡山ガイド—こだわりの歩き方』（昭和堂、2023年、215～229頁）

(2) ウェブメディアの開設・運営

- ・ 谷田朋美（現代書館ウェブ連載）「私たちのとうびょうき 死んでいないので生きていかざるをえない」（3月8日より配信）

https://note.com/gendaishokan/n/nb9a04434f864?magazine_key=mf8e4e990d77b

(3) 学会（6-4.参照）以外のシンポジウム等への招聘講演実施等

- ・ 該当なし

6-3. 論文発表

(1) 査読付き (0 件)

●国内誌 (件)

- ・該当なし

●国際誌 (件)

- ・該当なし

(2) 査読なし (4 件)

- ・坂井めぐみ「戦争が生かした障害者」『季刊 福祉労働』173号、2022年12月、pp.33-40
- ・中村江里「戦争体験に関わる「二次証言」の可能性と課題」『日本オーラル・ヒストリー研究』(18) 35-39 2022年10月
- ・松原洋子「新優生学と産む〈女〉の行方」『シモーヌ』7, 93-100頁、2022/12/20
- ・竹島正、野木岳、左近志保「川崎市地域リハビリテーション発展の歴史とその思想」『公衆衛生』. 86 (1) . 68-75. 2022

6-4. 口頭発表 (国際学会発表及び主要な国内学会発表)

(1) 招待講演 (国内会議 6 件、国際会議 2 件)

- ・末田邦子 (愛知淑徳大学) 「愛知県における医療社会事業の歴史」教育講演 第17回 愛知県医療ソーシャルワーク学会：2023年2月25日、オンライン開催
- ・渡部 沙織, 河村 裕樹, 高島 響子, 武藤 香織「希少難治性疾患のELSI課題に関する各ステークホルダーを対象とした質的調査」第43回日本臨床薬理学会学術総会 2022年11月30日 日本臨床薬理学会
- ・渡部 沙織「幹細胞研究における患者・市民参画 (PPI/E) とベネフィット・シェアリング」公開シンポジウム 「再生医療研究のELSI：ヒト胚研究利用と14日ルール」2022年11月22日 再生医療研究とその成果の応用に関する倫理的課題の解決支援課題 (AMED再生医療実現拠点ネットワークプログラム)
- ・松原洋子「断種法としての旧優生保護法における強制不妊」第34回日本生命倫理学会年次大会大会企画シンポジウム II (強制不妊はどのような人権 / 生命倫理の問題か—「優生学」および「性別の自己決定」における「身体の完全性」・「尊厳」・「リプロダクティブ・ライツ」保護の観点から) 2022/11/20
- ・川端美季「日本の銭湯の歴史 大阪を中心に」、おおさかふみんネット令和4年度大阪府・大阪市共催講座：おおさか銭湯ザ・ワールド——銭湯の歴史・魅力・楽しみ方、2023年2月3日、大阪市立阿倍野市民学習センター講堂
- ・Eri Nakamura: “War in the Postwar Family: Postmemory of the Asia-Pacific War in Japan”, *Stichting Dialoog Nederland - Japan - Indonesië Symposium Intergenerational Transmission of Trauma And Moral Injury as a Consequence of War* 2022年12月9日
- ・Eri Nakamura: “Experience and Public Discourse of Psychological Trauma in Japan during and after the Asia-Pacific War” *PTSD, Psychiatry, Traumatic*

Memory 2022年12月4日

- ・中村江里「心を壊された日本軍兵士たち ―第二次世界大戦とその長期的影響―」日本精神医学史学会 2022年10月14日

(2) 口頭発表 (国内会議 2 件、国際会議 1 件)

- ・渡部沙織, 武藤香織, 由井秀樹, 八代嘉美, 山縣然太郎「再生医療・幹細胞研究における患者・市民参画 (PPI/E) とベネフィット・シェアリングの課題」第22回日本再生医療学会総会 2023年3月25日
- ・Kawabata M:“BATHING, CLEANLINESS, AND HOME HYGIENE IN MODERN JAPAN” Association for Asian Studies(AAS), Hynes Convention Center, Boston, USA (March 2023).
- ・由井秀樹, 武藤香織, 八代嘉美, 渡部沙織, 木矢幸孝, 藤澤空美子「ヒト胚の培養可能期間をめぐる専門家・一般市民に対する意識調査」第34回日本生命倫理学会 年次学会 2022年11月19日 日本生命倫理学会

(3) ポスター発表 (国内会議 _____ 件、国際会議 _____ 件)

該当なし

6-5. 新聞/TV報道・投稿、受賞等

(1) 新聞報道・投稿 (_____ 件)

該当なし

(2) 受賞 (_____ 件)

該当なし

(3) その他 (_____ 件)

該当なし

6-6. 知財出願 (出願件数のみ公開)

(1) 国内出願 (_____ 件)

該当なし

(2) 海外出願 (_____ 件)

該当なし